

西日本支部四国部会(高松)との意見交換会

日時	⇒	2016年11月26日(土)	13:30~16:30
会場	⇒	サンポートホール高松	
参加者	⇒	NACS 西日本支部四国部会	7名
		石油連盟:	1名(植松氏)
		環境委員会:	3名



四国部会との意見交換会は、気候・風土が広島県と同じように、地震や台風の被害が少ない地域のため、日頃から災害における備えの必要性をあまり考えていないということであった。しかし意見交換会を通して、想定していなかったリスクに気づくと同時に、物資・情報面の両面ですぐに実施したいという意見が相次いだ。例えば広島支部と同様に、東日本大震災における被害の現状や被災後の生活における必要な工夫や知恵などの情報が行き渡っていない状況も確認できた。一方、本州及び瀬戸内海の島々を結ぶ物流経路として、瀬戸大橋やしまなみ海道等の道路交通網が整備されてはいるが、連絡船も物資の重要な経路として日常生活に浸透しているため、災害時のフェリーの燃料の確保などの意見も出た。また災害時の石油の配送等の事情だけでなく、「災害時石油供給連携計画」があること。災害時における各県との情報共有覚書締結の必要性。出荷地から供給地への配送費の差がガソリン代の価格差の一つになっているなど、石油連盟との意見交換を通して、目には見えない石油の重要性、役割を認識する機会となったようである。

なお、ガソリンの需要が減少していく流れ(車の燃費が良くなるため)の中で、過疎地におけるSSの減少をどうすればいいのか、もっと聞きたかったという意見もあった。